



地域で考える高校生の移動支援

たすかる美麻の高校生通学支援に向けた勉強会を開催しました。

事業部会では、今年4月に高校生を持つ家庭の皆さんから、買い物支援で使用している車両を高校生の朝の送迎に乗合で活用できないかとの提案を受けて、活用方法を検討してきました。



そんな中、道路交通法の改正を受けて、6月以降に国土交通省主催の「無償運送の運用ガイドラインの説明会」が全国各地で開催されるようになり、地域の支え合いによる無償運送の取扱いが具体的に示されるようになりました。

今回は、法改正による変更点を中心に地域の皆さんに共通の理解を持っていただくための勉強会としました。

今後は、大町市の交通政策担当者にもご助言をいただきながら、11月から試験運行がスタート出来るよう準備を進めることになりました。

(美麻地域づくり会議事業部会)

2024年11月号

105

— Since 2006.7 —



地域の情報をホームページ
やSNSで発信しています。

美麻Wiki



いつまでも お元気で！美麻地区敬老会



美麻地区敬老会を9月18日(水)、ぼかぼかランド美麻で開催しました。

当日は75歳以上の対象者約179名のうち、25名の方にご参加いただき、にぎやかに実施いたしました。

初めに長寿者や賀寿(白寿・米寿・喜寿)の方へ記

念品が贈られ、敬老会に参加したみなさんに牛越市長らご来賓の方々からお祝いの言葉をいただきました。なお、今年度に賀寿を迎えられる方は20人で、地区内の間伐作業で出た木を使用し、美麻小中学校5年生が授業で取り組んでいる絵本づくりの挿絵を刻印して作られた「美麻の民話時計」が贈られました。

式典に引き続きおこなわれたアトラクションでは、大町ギター・マンドリーノによる演奏がおこなわれ、参加されたみなさんはギターとマンドリンの調べに聴き入りました。また、ふるさとや信濃の国の楽曲では演奏に合わせて参加者全員で歌を歌うなど、会場は大変な盛り上がりを見せるとともに、久しぶりにお友達と顔を合わせ、懐かしい話しをしながら楽しい時間を過ごしました。

(美麻地区敬老会実行委員会)

吉田遠志展が開催中



メンドシーノ交流の始祖

美麻とメンドシーノ交流の礎を築いた芸術家吉田遠志さんの作品展が開催されています。

展示作品には美麻の公民館に展示されている「最良の日」や学校に展示されている「メンドシーノの夜明け」もありました。美麻とメンドシーノの交流や、今はなき遊学舎についても紹介されていました。

主催者にメンドシーノの方々にも情報発信したいと聞いてみたところ「会場の雰囲気伝える写真であればどうぞ」と了承いただけました。

作品展は、東御市丸山晚霞記念館で12月1日(日)まで開催されています。

<https://maruyamabanka.com/exhibition/yoshidatoshi/>

梨の木祭、地区文化祭 初の合同開催

今年から、美麻文化祭は学校の梨の木祭と合同で9月27日、28日に美麻小中学校を会場に開催されました。学校の音楽会には、「子どもが卒業し

てから学校に来るのは久しぶり」という地域の方もたくさん来ていただけたようです。



9月27日28日、今年初めて地区との合同開催となった「第37回梨の木祭・美麻地区文化祭」が行われました。スローガン「RAINBOW 99 PEACE」を掲げて、9年生を中心に全校児童生徒一人ひとりの個性を大切に、全校の絆をより深める2日間となりました。(文責 太田さや香)

☆9年生の振り返りより

・本番2日間までの道のりが長くて大変だったし、辛いことや哀しいこと苦しいこともたくさんあったけど、なんだかんだ二日間楽しんでもらったり、楽しめたりしたからそんな期間も大事だったんだと

思う。準備の大切さを学べた期間だった。

・劇のリハが始まった時はゆるく練習していて心配になったけど、本番に近づくにつれていい感じになっていった。ステージ裏のバタバタも思い出。とにかく自分から動くというところは成長した。

・二日目の最後みんなでダンス踊ってる時に緊張とけてポーってなった。これが一番心に残ってる。

・全員、自分の委員会のことで忙しいのに、他の委員会のこと手伝ったり、助けたりしてて、すごいなあーと思った。「他に何かやることある？」これをたくさん耳にした感じ。ほぼ全員が自ら梨の木祭を創り上げようと頑張っていた。



イベント出店で美麻地区をPR

9月14日(土)に、大町市で開催された「北アルプス呑み歩き」に9年生で参加してきました。昨年度、北安醸造株式会社の社長さんにイベント参加への声をかけていただいたご縁で、今年も参加することになりました。9年生が市民科で行っている「花豆」の商品の販売やチラシの配付をし、より多くの方に美麻の花豆について知っていただく機会になりました。(市民科 花豆株式会社)



イベントを通し、沢山の方に花豆について知ってもらえたと思います。試食したり、商品を買ってくださったりした方の中には、県外から来ている方もいました。花豆

や私たちの活動について質問をしてくださる方もいました。また、「頑張ってるね」など温かい言葉もいただきました。この参加を通し、大町市や県外から来ている方に美麻や花豆について知ってもらう良い機会になったと思います。これからも美麻や花豆についてPRしたいと思います。(9年 菅野おと)



麻和紙で卒業証書づくり



9月6日(金)に、松崎和紙の腰原さんをお招きし、美麻地区の地名の由来となっている麻和紙の卒業証書づくりをしました。6年生の時に修了証書づくりを体験している人もいるということで、その頃の思い出にも浸りながら、和やかな雰囲気の中で、作業が行われました。卒業証書については、腰原さんのご指導のもと、慎重に仕上げている姿が見ら

れました。また、二人ずつ証書作りをする傍らで、ちょうどポストカードサイズのオリジナルの和紙を作りました。どの作品も一人ひとりの良さが光る素敵な作品ができました。一つとして同じものはない世界に一つだけの卒業証書づくりができた一日でした。(文責 吉岡 伸)

☆9年生の感想より

思ったより、液体はトロトロしていて不思議な感じがした。その液体を縦・横に動かすと紙の形ができて面白いなと思いました。色々な飾りをつけて楽しめたし、貴重な体験ができました。単純な作業だけど、紙にも厚さとか形があって、それぞれ自分なりのデザインが素敵でした。私の願い「自分なりの証書」ができて良かったです。(9年 佐々木 優衣)

梨の木祭「市民科発表会」



「鹿革」をテーマに市民科学習を進めてきた僕は、市民科発表会で「鹿革」を「美麻のいいところ」として伝えたいと思いました。そこで、プレゼン講習会で教えていただいたことを活かしてスライド作りをしたり、話すときの目線を工夫したりしました。

当日は、地域の方から鹿皮を「鞣す」作業について詳しく教えてもらったり、今後の活動についてアドバイスをもらったりすることができました。

市民科発表会を終えて、自分が学んだことは、

「伝える」ことの難しさです。工夫して取り組んだものの、どうしたら伝わるかもっと考える必要があったと思いました。

今回の市民科発表会で学んだことを今後の活動やまとめの会などの発表に活かしたいです。事前準備や当日、力を貸して下さった地域のみなさん、ありがとうございました。(7年 西沢 唯斗)

人権って大切なもの？～人権を考える市民の集い～



9月12日(木)に美麻小中学校で「人権を考える市民の集い」が開催されました。「人権って大切なもの？」という演題で清水(しみず)稔(みのる)さん(長野県同和教育推進協議会事務局次長)の講演をお聞きしました。清水さんは、いじめをしてはならないこと、自分や相手の人権を大切にすること

をワークショップを交えながら児童生徒にわかりやすく話してくださいました。

<児童生徒の感想より>

・「さわやかな自己主張」ということが勉強になりました。相手を傷つけずに自分の気持ちを伝えられる方法を知りました。(9年)

・いじめはうわさの段階で止める。傍観者の力が(いじめを止めるために)どれだけ強いものかわかりました。(9年)

生徒を代表して7年清水凜(しみずりん)さんは「人に気持ちを伝えるということ」、8年小宮山(こみやま)琥珀(こはく)さんは「当たり前幸せ」という題名で意見発表をしました。児童生徒はこの2名の意見発表からも、人権について自分自身を見つめなおすことができたようです。(文責 嶺村)

～伝えたいメッセージを伝えるには！～



8月30日(金)、マクドナルド直子さんを講師にお招きしたプレゼン講習会(7～9年)を行いました。市民科をはじめとするさまざまな発表の機会が必要になる、プレゼンテーションの基本を教えてくださいました。「話し手は聞き手の集中力をコントロールする」との直子さんの言葉通り、飽きさせることのないお話に、子どもたちは始めから最後まで聞き漏らすまいと聞き入っていました。

9月末の梨の木祭市民科発表会に向け、話し手

自身が主役になり伝えたいメッセージを伝えられるようにと、プレゼンの資料や原稿を試行錯誤しながら準備を進めました。この講習会の前と後で、子どもたちの発表には大きな変化がでていったことは間違いありません。その分、発表の場で得られるフィードバックの質も上がり、市民科の学びが今後さらに充実していくことに繋がったことと思います。直子さん、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。(文責:赤坂亜由)

～コンテストで美麻地区の特産品を使ったお弁当が優勝～

白馬バレー地産地消お弁当コンテストで二重地区の大木さんが応募したお弁当が「持って登りたい部門」において全食材の内、大町・小谷・白馬産の食材を7割使用する。環境に配した包装を用い、持ち運びしやすいこと原価率45%程度等の条件が提示される中で、見事、優勝&商品化されることになったそうです。おめでとうございます。

大木さんの考案したお弁当は、美麻のジビエ(鹿肉)と美麻地区の特産品として栽培に力を入れている花豆を取り入れた地域の魅力満載のお弁当です。商品化されたらぜひ食べてみたいものです。

コンテストの詳細は、白馬バレー 地産地消お弁当コンテストホームページでご確認いただけます。

<https://bentocontest.jp/>

持って登りたい部門 最終結果

優勝&商品化！



「山ビク弁当」

作：大木順子さん 大町市

大塩富士浅間神社の秋の例大祭



塩富士浅間神社の秋の例大祭が行われました。前夜祭には大塩としてはコロナ以来5年ぶり、舞台当番の南村はなんと12年ぶりに舞台を出すことができました。ほとんどが移住者の南村では過去の写



真や記憶、数少くなった貴重な年寄りの指導の中、舞台を組みました。お囃子は保存会が16年前に復活して以来、12年ぶりに練習して演奏できました。みなさんの力を感じた一日でした。



二重水上神社例大祭賑やかに開催される



22日 例大祭

令和6年水上神社例大祭は、9月21、22日に開催されました。例年より1日繰り上げての開催でしたが、天気予報では雨マーク心配されましたが、時々降る時雨程度で済み、予定されていた打ち上げ花火も実施され、訪れた皆様に感動と喜びをもたらすことができました。若連による神社への参道の両側に、燈明を灯していただき幻想的な重みのある神社へと歩を進めていただきました。

神社境内では、若連による夜店が盛大に催され、屋台では焼きそばや金魚すくいなどが催され盛り上がっていた。余興では、子供達による祭囃子の練習の成果のお披露目、源流美麻太鼓の勇壮なばちさばきに魅了されるなど、前夜祭は賑やかに盛り上がりました。

翌22日は、大祭りで神輿の巡行が予定されていましたが、あいにくの雨降りとなり巡行が叶わず、拝殿の軒下で神輿にご神体を乗せて、拝殿の前を回り、先導をつとめる幟旗を持った皆さんと記念撮影をして巡行をしたこととされました。

神事では、自然の恵みに感謝して、農作物の五穀豊穡と氏子の無病息災、二重地域の安全・安心して生活できるようご祈願していただき厳肅な祭典となりました。

人口減少社会の中で、若者の減少が著しく二重若連の皆さんも悩んでいます。地域を盛り上げていくには若者の力を借りなければ賑やかな祭典の実現は図られなかったと、振り返ってみて若連の皆様により感謝を申し上げます。

(水上神社総代会長 北沢伊奈を男)



21日 前夜祭



会員活動紹介

ふたえ里山整備協議会

ふたえ里山整備協議会は、里山の整備を地主以外の多くの人の参加で行なう「開かれた里山」事業に取り組んでいます。10月20日(日)に3年目となる地域交流イベント「里山ファミリーデー」を開催し、大勢の方から参加いただきました。

当日は、二重地区PTAの皆さんが正月行事おんべ用のカヤ刈りを集落近くで行なうことで、野生動物の隠れる場所を減らしていただきました。



その後、山頂に整備した里山公園で、ピザ焼き、足湯、マウンテンバイク体験などを楽しんでいただきました。

今年は、ジビエ振興会の皆さんにも参加いただき、ジビエ肉のPRを兼ねて料理教室を開催していただきました。

地域の高齢化や人口減少、不在地主の増加などで私達の生活の近くにある里山は年々荒廃が進ん

でいます。里山整備は、森林の持つ防災機能を高めるほか、生活環境を良くしたり、害獣対策にも硬化が期待されますので、今後もより多くの方に活動に参加いただきたいと思います。

(ふたえ里山整備協議会 会長 大塚一男)



空き家等の活用意向調査に協力ください。

美麻地域づくり会議では、本年度小さな拠点づくりの移住定住促進事業の一環として、地区内の空き家や宅地等を対象にして、所有者に現在の状況や活用意向を伺う調査を実施し移住・定住の促進に活用可能な物件の把握を行うこととしております。

現在、対象となり得る空き家等を把握している状況です。今後さらに具体的な調査が必要となった物件がありましたら、地域の皆様に状況をお聞かせいただくこともと思いますので、その際は、ご協力をよろしくお願いいたします。

